P - 3 - 3

補完代替医療(CAM)に関する認識は 医療系大学生の男女間で異なる

Gender Differences in Knowledge of and Attitudes regarding Complementary and Alternative Medicine among Health Care Profession Students

〇高田 智子¹⁾、蔵本 真理²⁾、今村 麻衣子³⁾、岸田 佐智³⁾、安井 敏之⁴⁾

- 1)特定非営利活動法人HANDS、2)徳島赤十字病院、
- 3) 徳島大学大学院保健科学部門女性の健康支援看護学分野、
 - 4) 徳島大学大学院保健科学部門生殖補助医療学分野

We examined gender differences in opinions, attitudes and knowledge regarding complementary and alternative medicine (CAM) among health care profession students. We used a questionnaire to obtain information on knowledge, sources of information, personal use, interest, willingness to take lectures, opinions regarding effectiveness and willingness to recommend for 17 different CAM modalities. Female students are more likely to have positive and favorable attitudes toward CAM than are male students. CAM modalities that female students had an interest in and used were different from CAM modalities for which they had positive opinions regarding clinical usefulness and recommendation to patients, whereas CAM modalities for which male students would recommend to patients were the same as CAM modalities that they had interest in and used.

【目的】

CAM は世界的に普及しているが、これまでの研究によると一般的な集団、患者、医療従事者いずれにおいても女性は男性よりも CAM を使用していることが報告されている。また、医学科学生においても女子学生の方が男子学生より CAM に関して積極的であることが報告されている。しかし、医療系大学生に関して CAM に関する認識についての性差は報告されていない。そこで、本邦における医療系大学生の CAM に関する認識について男女間の相違を検討した。

【方法】

医療系大学の学部学生 2120 名を対象に、無記名の構成的質問紙票によるアンケート調査を行った。 調査内容は、属性および 17 種類の CAM について、1) 認知度 2) 情報源 3) 使用経験 4) 興 味関心 5) 講義の受講希望 6) 有効性 7) 他者への推奨の 7 項目を質問した。

【結果】

医療系大学生(男子 574 名、女子 885 名)の CAM に対する認識は性別によって差がみられた。女子学生は、CAM に対して肯定的で積極的な傾向が認められ、漢方と気功を除いた全ての CAM の「興味関心」「受講希望」「有効性」「推奨」において、男子学生より有意に高かった(p<0.05)。また、女子学生はアロマテラピーやヨガに対して高い「興味」「使用経験」「受講希望」を持っていたが、「有効性」と「推奨」について高かったのは漢方や精神療法であった。一方、男子学生は、漢方や精神療法に対して、高い「興味」「受講希望」「有効性」であり、「推奨」も高かった。

【結論】

医療系大学生においても、女子学生は男子学生に比べて CAM に対して肯定的で積極的であった。また、女子学生は CAM に「興味」や「受講希望」があっても、「有効性」や「推奨」とは連繋していなかったが、男子学生はこれらの項目が連繋しており、性別による CAM に対する認識と態度の違いが示唆された。